

西		蒙御免	東	
方	方			
<p>大関 鉄山鈷            関脇 大社檀所配札            小結 木実方蠟            前頭 牛馬ノ代錢            前頭 三十三番札所            前頭 今市ノ簪<sup>カンサシ</sup>            前頭 今市実操            前頭 上方行ノ鱧</p>	<p>大関 木綿            関脇 中町他国出古手            小結 御種人参            前頭 綿打弦            前頭 一畑薬師            前頭 仁多荒苧岡山行            前頭 牛馬草代            前頭 島根秋鹿疊表</p>		<p>御国産数々御座候得共            是ハ他国より金銭納る            御国益と成り候所之            大小によつて席を定メ            東西に分ケ入御覽申候</p>	
同	同		同	同
<p>杵築宿料            杵築富歩一            日御碕参物            杵築遊所            大池板津ノ商人            杵築ノ干鯨            山中ノ核苧            佐陀参物            富士名御山焼物            今市ノ雪踏</p>	<p>松江ノ他国問屋            他国者船賃            三保関参物            玉造温泉            八軒屋町宿料            浦々塩鯖            浦々板海苔            清水寺参物            釜甌方鑄物            木次ノ紙</p>	行	<p>荒島石            揖屋の鱸            安来問屋            松江の筆            宇龍問屋            長崎行<sup>申海鼠</sup>            才賀町小倉            三保関遊所            山口伝十            本庄の干海老            加々浦問屋            宇賀の菅緒</p>	
同	同	司	同	
<p>来海石            浦々の和布            三保関問屋            古志の煙草入            馬潟問屋役錢            玉造の馬腦石            才賀町の元結            和田見遊所            鷺の丈太夫            志和津浦鱈            三沢の温泉            今市の皮緒</p>	<p>大社祈禱参物</p>	頭	<p>新屋丹三藍運上            森山花ノ木伯州行            浦々心太草            御船屋の鮫            意東の赤貝            雲津の問屋            東浦の綿もり            七類ノ大日因伯より参            安来の祇園            加々の稻荷            安来船頭            西山須南保            生馬の石            大橋下漕舟</p>	
同	同	取	同	
<p>京屋塩口錢            妙見桃石州行            津田の菅笠            松江弓矢師            備後行の肴            大橋下帳持            秋鹿の檜皮            鷺の参物            矢尾の天王            三刀屋の天神            荒島の舟頭            田儀の目医者            氷室の火打石            古志川湊渡</p>	勸	元	同	
同	同	尾道御廻米	同	

○一一年所収 (神田家文書『松江市史』史料編5近世一、二)

史料②

覚

(中略)

一、近年健成若キ出家道心者多遊民与成り令徘徊候、是仏法あらず非世法、剃徒者も有之由相聞候、此後百姓男女とも二剃髮願之者有之ハ能致教訓可差留、若無抛子細於有之者、其旨趣聞届可令差図候、御国中人數凡式拾万、其内士商工老少女人を除農事を勤民六七万ニハ不過、此力を以其式拾万之人を養、老人農事を欠時者人馬諸生之撫育を失、仏法大意を存、万民撫育仏行の勲事ニ候、世法与仏法与理ニツ成制ハ必是魔法ならん、此旨在々寺庵方へ可被申伝事

(中略)

右之条々者入を量而出す事を可成之掟ニ候間、克被相勤候刻者御奉公功大ならん

貞享四年卯五月 仙石猪右衛門

平賀縫殿

(「御条目并御用所御書出拔書」史料番号18、京都大学大学院法学研究科図書室所蔵、『松江市史』史料編6近世Ⅱ、二〇一三年所収)

史料③

覚

浜佐田入江役、今年水難無之様ニ候之条、葭原

当春草切可令開発候、東西浜佐田無田者、兼而者田地無之所故漁獵仕来候得共、右之通田地出来之上者、漁を止、耕作之百姓卜成、地を割遣之、日用賃米を以早々糶可被申付候、以上

元禄二巳閏正月二十五日

(「御条目并御用所御書出拔書」史料番号127、京都大学大学院法学研究科図書室所蔵、『松江市史』史料編6近世Ⅱ、二〇一三年所収)

史料④

吉田町

田部長右衛門殿 村田幾右衛門

(万延元年)

正月廿四日

松江兩町諸商心相衰候ニ付、御国産鉄以後松江ニおゐて一田商事取組度、尚又他領通り抜鉄之分も松江にて船手壳御免被仰付度旨町家より願出候一件及尋、委曲返答之趣申達候処、町家願之趣ハ御差押、是迄之通被差置旨ニ候条、左様可被相心得候、以上  
(万延元年)

正月廿四日

雨森甚太夫 書判

村田幾右衛門

書判

田部長右衛門殿

櫻井源兵衛殿

追加外鉄師ともへも可申達候、以上

(「自万延元年申年至文久三亥年鉄方御用留」田部家文書、拙稿「近世後期におけるたたら製鉄業の展開―出雲国松江藩領を中心に―」史料11、『芸備地方史研究』第二八四号、二〇一三年所収)

史料⑤

一、御鷹堀土手筋切込、又者踏崩し并川垣視等損し不申様、勿論塵芥捨候儀、惣而猥之仕形無之様追々申触置候処、兎角心得違之者茂有之哉、土手筋へこも具類積置、右之内二者皿茶碗瓦くす・貝から・竹木之折等ハ作人共・二茂不相成候ニ付、川中へ投捨候趣ニ相聞不埒至極之事ニ候、依之此度漁師町向水門之内東之畑江一ヶ所、漁師芝手之下之方、西尾村常念寺新田下水中へ老ヶ所、右両所江塵捨場出来候条、以来猥ニ無之様郷町へ殿り合之儀申渡候、於御家中茂こも具取捨候ハ、右両所之内へ取捨候様可致候、尤皿砂鉢瓦くす、或ハ貝から、竹木折木之分ハ、漁師芝手之下西尾村常念寺新田下こみ捨場へ取捨候様可致候

文化十酉八月二十四日

(「御条目并御用所御書出拔書」史料番号54、京都大学大学院法学研究科図書室所蔵、『松江市史』史料編6近世Ⅱ、二〇一三年所収)